



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆さま等と協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.13

地域連携病院⑧「沖の洲病院」

今回は、人間ドックに力を入れている沖の洲病院を紹介します。

■ 安心して健診を受けられるために

沖の洲病院は、健診センターと透析センターを併設し、優秀なスタッフを充実させることで、生活習慣病や悪性腫瘍の予防・発見・治療に力を尽くしています。

平成18年8月に徳島県内で初めて人間ドック・健診施設機能評価の認定を取得した健診センターは「質の高い医療の提供と、患者さんが安心して健診を受けられる」をモットーに、放射線科専門医、マンモグラフィ読影認定医や内視鏡専門医等による正確な診断をダブルチェック体制で常時行っています。健診センターで行う人間ドックには、近隣からはもちろん県外からも多くの利用があり、年間約14000人、多い時では1日約80人が受診しているとのことでした。

一方の透析センターは、透析を受ける患者さんのプライバシーを考慮した徳島県で最初の半個室を設置し、専門スタッフによる腎不全保存期の治療、透析導入や合併症まで、幅広く腎不全医療に取り組んでいます。また本年4月から開始した夜間透析は患

者さんのご要望によるもので、患者さんがより快適に治療を受けられるために、毎日のコミュニケーションも大切にしているそうです。

■ 患者さんが満足する医療の提供

沖の洲病院は本院の消化器・移植外科や産科婦人科など他院で治療を終えた患者さんを受け入れることも多く、その際には相手の病院に対して、迅速かつ細かい経過報告を行っているそうです。また、ここには長期入院が可能な亜急性病床と短期入院の急性期病床があるため、患者さんの病状に合わせて入院期間を決定できるなど受け入れ体制も整っているため、今後も連携を強めていきたいとのことでした。

また、今年4月からは泌尿器科に常勤の医師が勤務するようになり、設備面でもリハビリルームや外来の内装をリニューアルするなど、患者さんに満足していただくための病院作りに励んでいます。「沖の洲病院だから出来る治療」を目指して、遠方からも患者さんがやってくる病院にしていきたいと話してくれました。

「地域医療連携」 について

徳島大学病院地域医療連携センターでは、大学病院と地域の医療機関との円滑な橋渡しを目指して、大学病院での高度先進医療から、患者さんがお住まいの地域の診療機関と連携し、在宅療養へと継続できるようサポートしています。



■説明は、
仁木 亮介(にきりょうすけ)
副院長

■問い合わせ
医療法人 なぎさ会
沖の洲病院
徳島市城東町1丁目8-8
Tel.088-622-7111